

"Il Vento di Tango" タンゴの風 ～イタリア・アコーディオン奏者を迎えて～

3月6日(日) 15:00 開演
OCC ホール(大阪クリスチャンセンター)
アコーディオン(バヤン)&バンドネオン
ジュゼッペ・シリアーノ
ピアノ 下川れいこ ヴァイオリン 八幡順
メゾソプラノ 北野知子

2013年のMusic in style 岩崎淑シリーズコンサートでシリアーノ氏との共演をみてきた。タンゴの世界に魅了された下川れいこさんがシリアーノ氏と共演。日本では3か所、東京イタリア文化会館、ティアラこうとう、そして最後はOCCセンター、それぞれに素晴らしい演奏を聴かせていただいた。このリサイタルの半年前にイタリアのカステルフィダルトへ行き、作曲者のエンリコ・ブラッティ氏と逢い、シリアーノ氏と演奏をする。カステルフィダルトでは毎年シリアーノ氏が審査員をつとめるPIF国際アコーディオンコンクールも開催されている。

ジュゼッペ・シリアーノ (Giuseppe Scigliano)

イタリアを代表するアコーディオニスト、バンドネオン奏者。幼少より、マリオ・カステラッチにクラシックアコーディオンを師事。ローマのサンタ・チェチーリア音楽院を優等で卒業。イタリア国内外100公演以上演奏。2006年には、ナンニ・モレッティ監督の映画「夫婦の危機」(caimano)のサウンドトラックを収録。現在、アヴェリーノのD.Cimarosa音楽院にて教鞭を執っている。また、PIF国際アコーディオンコンクールの審査員をつとめる。

下川れいこ

第8回カナダパシフィックピアノコンクール第2位。2014年、米・アリゾナ州でチャイコフスキーのピアノ協奏曲を演奏、動画配信中。チェンバロ・フォルテピアノから現代曲、タンゴまで幅広いレパートリーを持つ躍進し続けるピアニスト。



プログラム

- アストル・ピアソラ作曲 バンドネオン協奏曲
「アコンカグア」(1979) (Acc Pf)
- エンリコ・ブラッティ作曲 エクスプレス組曲(2011)
(ピアノデュオ版 世界初演) (Acc Pf)
- アストル・ピアソラ作曲 “Vuelvo al Sur”
南へ帰ろう(1988) (Bn Pf)
- “Tanti anni prima” アヴェ・マリア(1984)
(Msop Bn Vn Pf)
- “Che Tango Che” チェ・タンゴ・チェ(1984)
(Bn Vn Pf) 他

OCCセンターはピアソラファンをはじめ広域からの来場もあり、このライブへの関心がうかがえる。すでに満員、多くの人が待ち構えていた。オープニングは、ピアソラの「バンドネオン協奏曲」から。バヤンのリズムの利いた歯切れのよい音色と、ピアノの重低音がぶつかる激しい音楽だが、すぐさま

ピアソラ特有のカウンタービレのフレーズにピアノがピアノニッシシモに対応するなど、実に調和のとれたハーモニー



カステルフィダルトにて

を醸し出していた。グルーヴ感のあるピアソラが聴けた。特に3楽章の激しさとバヤンのパッセージが協奏し 独特の世界をつくりだしていた。エンリコ・ブラッティ作曲の「エクスプレス組曲」第3楽章「南の風」は、8分の7拍子というダンスで温かいイタリアの雰囲気伝わってきた。

後半、シリアーノ氏はバンドネオンを演奏、ピアノ、ヴァイオリン、それにメゾソプラノが入る4人編成でピアソラの「アヴェ・マリア」イタリア映画「エンリコ4世」の曲。ヴァイオリンの哀愁感漂う音色にバンドネオンの泣きの音色が絡み、メゾソプラノが慈悲深く歌い上げる。聖母マリアに祈る崇高な音楽。どのパートもなければならぬ。今しか聴けない瞬間の音楽、感動だった。

最後は「チェ・タンゴ・チェ」ピアソラとミルヴァは、奇蹟の盟友で伝説のステージを繰り広げた。このノリは、ピアソラのタンゴの中でも特に陽気である。バンドネオンを愛おしむ音楽「ここは日本？」海外で演奏を聴いている気分になった。アンコール2曲、「オブリヴィオン」「リベルタンゴ」しっかりと最後まで聴かせてくれた「タンゴの風」コンサートだった。



アヴェマリア 北野知子さん(Msop) 八幡順さん(Vn)
シリアーノさん(Bn) 下川れいこさん(Pf)



ピアソラのバンドネオン協奏曲を演奏する
シリアーノさん(Acc) 下川れいこさん(Pf)



ライブ終了後、余韻が。名残を惜しんでいた。

シリアーノ夫妻を囲んで、下川れいこさん、
八幡順さん、北野知子さん。